

# 牛久：学校周辺に見る自然

第25号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2011年7月15日発行

## ＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その3. ハチ＞

7/6、ひたち野うしく小3年生の水辺公園観察の続き。今回はハチの仲間です。1～3はヤマハギの花に、4はシモツケに来ていました。なお、3,4は下見(6/29)のときに見つけ写したものです。

### 1. クマバチ (ミツバチ科)



すでに何度か紹介しているハナバチの仲間ですが、「クマンバチ」と恐れられる(オオ)スズメバチと混同して怖がられることも多いです。たしかに「ぶ～ん」と大きな羽音で近づかれると、体も大きいし怖い感じがしますが、ミツバチに近い仲間なので、つかんだりしなければ刺されることはまずないでしょう。私も近くによって、何枚も写真を撮らせてもらいました。

### 2. トラマルハナバチ (ミツバチ科)



マルハナバチの仲間、土の中の穴に巣をつくります。私は見たことがないのですが、ネズミやモグラの穴を利用すると書いてあるのを読んだこともあります。花にもぐっているのをよく見かけますが、自分で食べるだけでなく、集めた花粉や蜜を巣の中の幼虫に与えるそうです。見ての通り毛深いので、花粉も付きやすく、植物にとっては蜜や花粉をとられるだけでなく、自分の花粉を他の花の雌しべに運んでもらい、よい種子をつくるのに役立つありがたい昆虫でもあるのです。

### 3. スミスハキリバチ? (ハキリバチ科)



ハナバチの仲間は種類が豊富で、似ているものも多く、いつも名前調べで苦労します。このハチも、自信をもってスミスハキリバチと言いきれないので、?をつけました。腹部の腹側に毛がたくさんあって、これも効率よく花粉を運んでくれそうですね。写真のヤマハギもそうですが、マメ科の花によく来るようです。

### 4. キオビツチバチ (ツチバチ科)



まっ黒な体に腹部の黄色い帯が特徴。土の中のコガネムシの幼虫に卵を産みつけ、それを食べてこのハチの幼虫は育ちます(こういうのを寄生といいます。)。でも、成虫は写真のように花の蜜を吸って生きています。写真はメスで触角が短いですが、オスではずっと長いので、それで区別できます。【理科支援員 宮内】